



国土交通省・自動物流道路検討会_ヒアリング資料

2024年5月14日

アサヒグループジャパン(株)
ロジスティクス戦略部

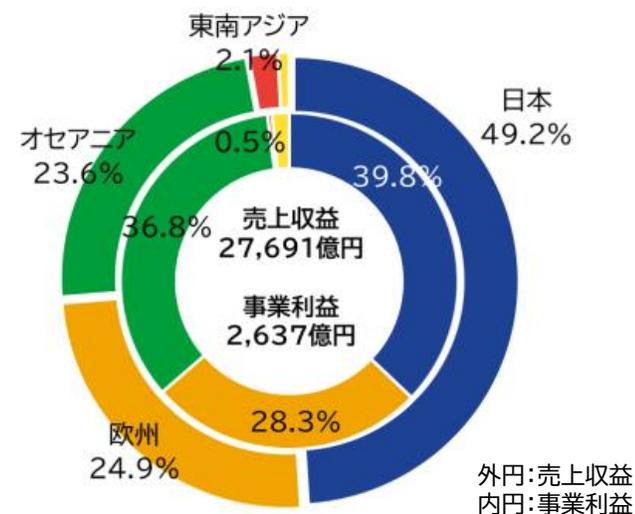
- 会社概要
- 物流フロー、生産・物流拠点、物流量 等
- 物流環境配慮の取り組み(全体像、事例)
- アサヒグループが目指したいこと
- 自動物流道路について(期待すること等)
- appendix(環境配慮の取り組み事例)

- ◆ 商号 **アサヒグループホールディングス株式会社**
- ◆ 設立 **昭和24年(1949年)9月1日**
- ◆ グループ従業員数 **28,724名(連結)**
- ◆ グループ会社数 **連結子会社:199社**
持分法適用関連会社:32社
- ◆ 売上収益 **27,691億円**

※2011年7月に、純粋持株会社化に伴い、「アサヒビール株式会社」より商号変更



(2023年・事業セグメント別実績)



Asahi Europe & International Ltd

< 欧州 >



Asahi Holdings (Australia) Pty Ltd

< オセアニア >



Asahi Holdings Southeast Asia Sdn. Bhd.

< 東南アジア >



アサヒグループジャパン

< 日本 >
2022年1月~





アサヒグループ
ホールディングス

AEI
(欧州)

AHA
(北アジア)

AHSEA
(東南
アジア)

アサヒグループ
ジャパン
(日本)

主要な連結会社

(酒類事業)

- アサヒビール
- ニッカウヰスキー
- エノテカ
- アサヒドラフトマーケティング
- アサヒビールモルト
- アサヒビールフィード

(飲料事業)

- アサヒ飲料
- カルピス

(食品事業)

- アサヒグループ食品

(その他)

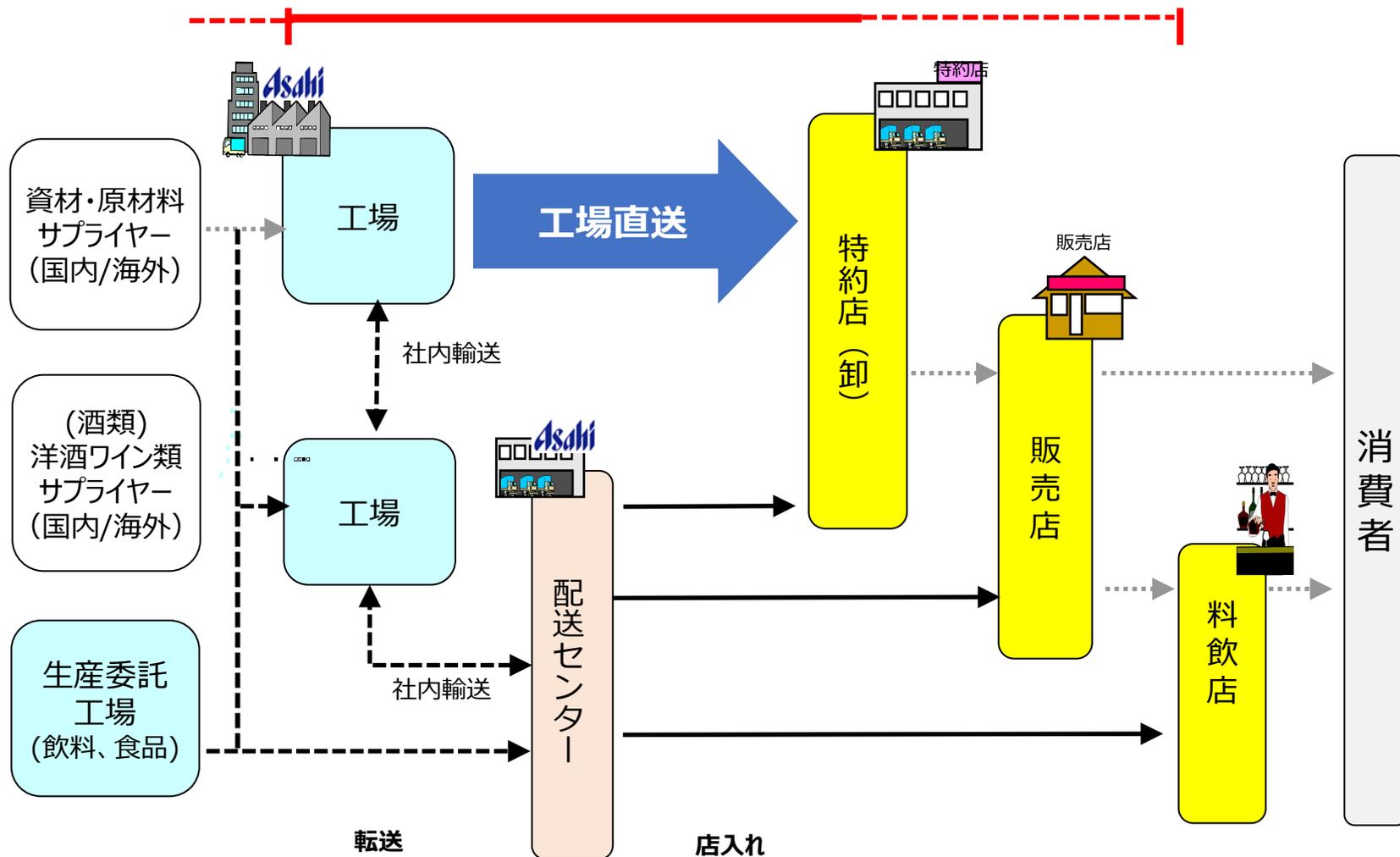
- アサヒロジ
- エービーカーゴ東日本
- エービーカーゴ西日本
- アサヒユウアス
- アサヒフードクリエイト
- なだ万

物流関連会社

アサヒグループジャパンの役割

- One Asahiでの全体最適の追求
- 共通機能の集約による徹底効率化
- 事業会社単独ではやりにくい事業横断での成長、コスト、サステナビリティの取組の推進
- 事業会社での取組の支援、加速
- 他リージョンとのベストプラクティスの共有、協業
- アサヒロジ社等機能会社の管理

アサヒグループ(メーカー)の物流領域



生産・物流拠点数	自社工場	委託工場	物流拠点
酒類(ビール類)	6	—	24
(洋酒等)	7	—	6
飲料	7	40	45
食品	7	80	10
その他	3	—	—

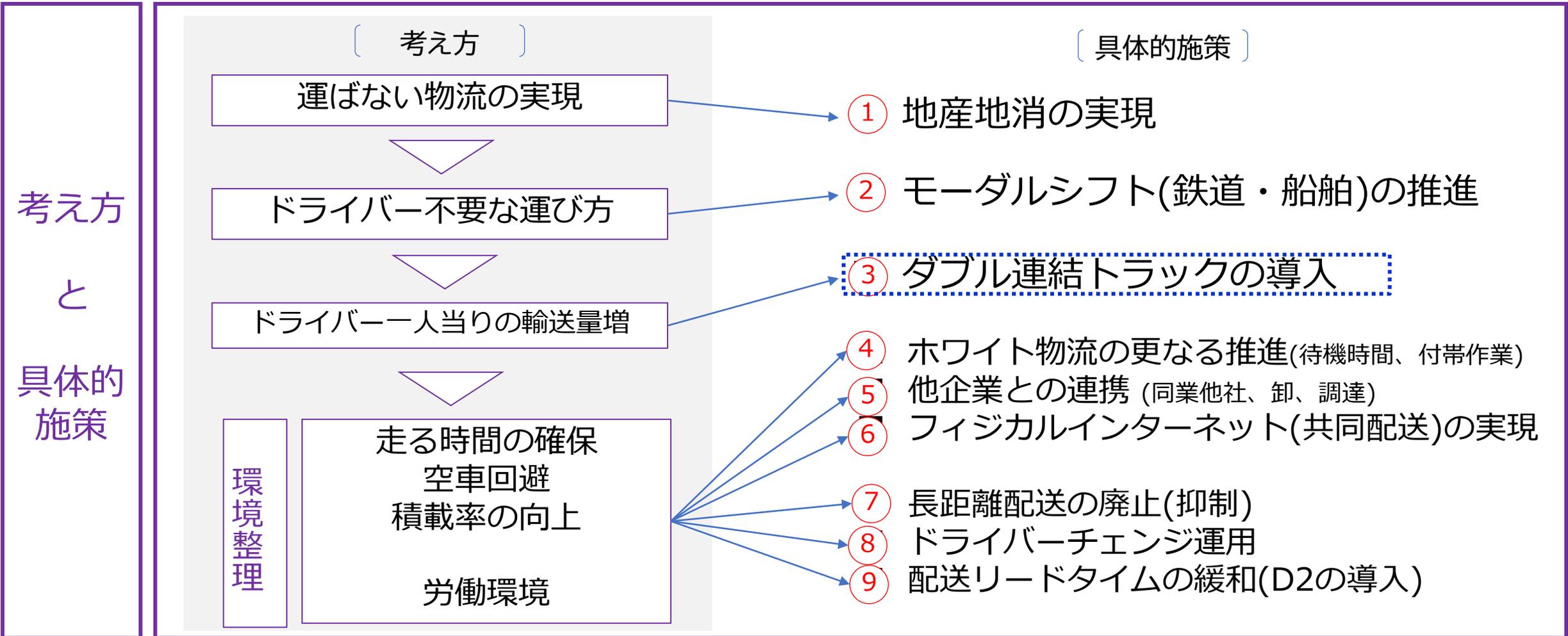
その他 = アサヒビール×2、アサヒサイカレ×1
 物流拠点 = 酒類、飲料、食品で一部重複カウント(同居)あり

トラック台数(グループ計)	店入れ	転送	合計
台数/日	1,890	1,230	3,120

物流環境配慮への取り組み(全体像)

目指す姿

ドライバーファーストで運送効率の向上を目指す **選ばれる荷主に!**
実走率(走る時間の確保) × **実車率**(空車回避) × **積載率**(より多くの荷物を積む)



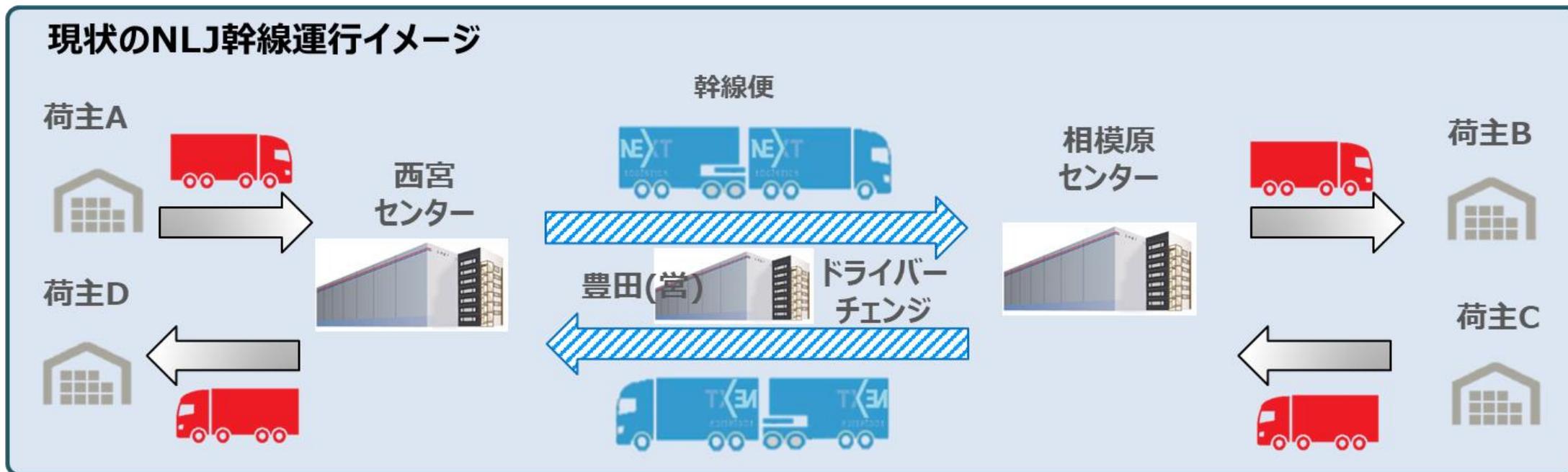
③ダブル連結トラックの導入

25mダブル連結トラック(フルトレーラー)による関東⇔関西間の幹線輸送

- ・ 関東発 : AB 1台/日 (ニッカ柏工場~吹田物流センター)
 ASD 3台/日 (群馬エリア~明石工場)
 AGS 1~3台/日 (関東各地~西日本配送センター)
- ・ 関西発 : AB 1台/日 (吹田物流センター~茨城物流センター)
 ASD 3台/日 (明石エリア~群馬DC・埼玉狭山DC・厚木DC)



Next Logistics Japan社(NLJ)に出資し、ダブル連結トラックを活用
 (パートナー企業として参画)



燃料電池大型トラックの実証実験を昨年より開始

- ・物流業務におけるCO2排出量削減に向け、水素燃料活用の可能性を検証
- ・国内商用車全体のCO2排出量の約7割を占める*1大型トラック領域におけるCO2排出削減を目指す

*1: 車両総重量3.5t超のトラック・バス、日野調べ（2020年9月末現在）

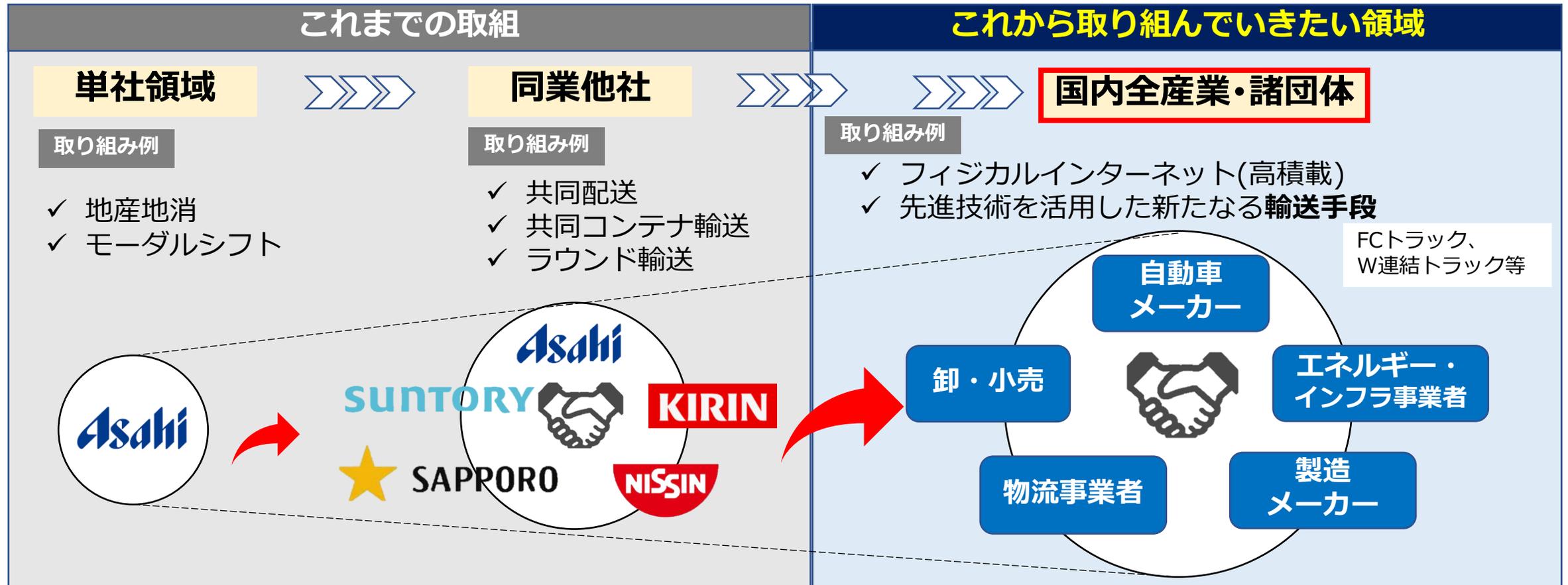
協力企業：アサヒグループジャパン株式会社、西濃運輸株式会社、NEXT Logistics Japan株式会社、ヤマト運輸株式会社、トヨタ自動車株式会社、日野自動車株式会社



アサヒグループが目指したいこと＝期待すること

CO2排出量低減のため、物流効率化のために、アサヒグループは、単社でやれることからスタートし、同業他社との協業領域を拡大してきました。直近では、自動車メーカーさまや物流事業者の方々とも連携を図り、更なる環境負荷軽減取組を推進してきております。

自動物流道路等、先進技術を活用した社会インフラ構築についても、弊社としては微力ながらご協力させて頂きたいと考えております。





期待したいこと

配慮頂きたい事項

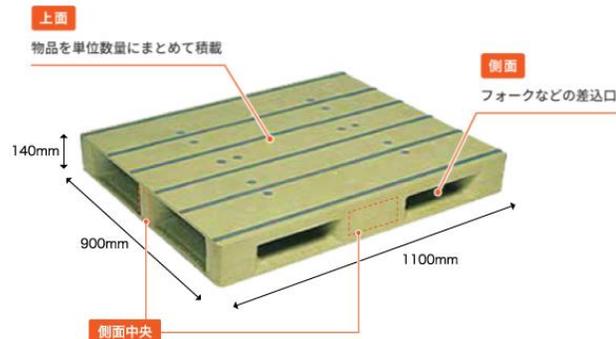
ドライバー不要な輸送手段として
工場間輸送等にて活用させて頂きたい

- ✓ 重量物であっても輸送可能な設計にして頂きたい
- ✓ T9型パレット(1,100mm×900mm)も使用できる設計にして頂きたい

※1パレット当りの重量:700kg~750kg
高さ: 1.2m~1.5m



ビール9型プラスチックパレット



共通ルールとして、パレット側面に下記の記載が印字されております。
「〇〇株式会社 所有」(※注:会員企業名)
「譲渡・無断使用一切禁止」
「一般社団法人 P/Pレ共同使用会 管理」
※但し、2013年以前に投入されたパレットは上記の記載がない場合があります。

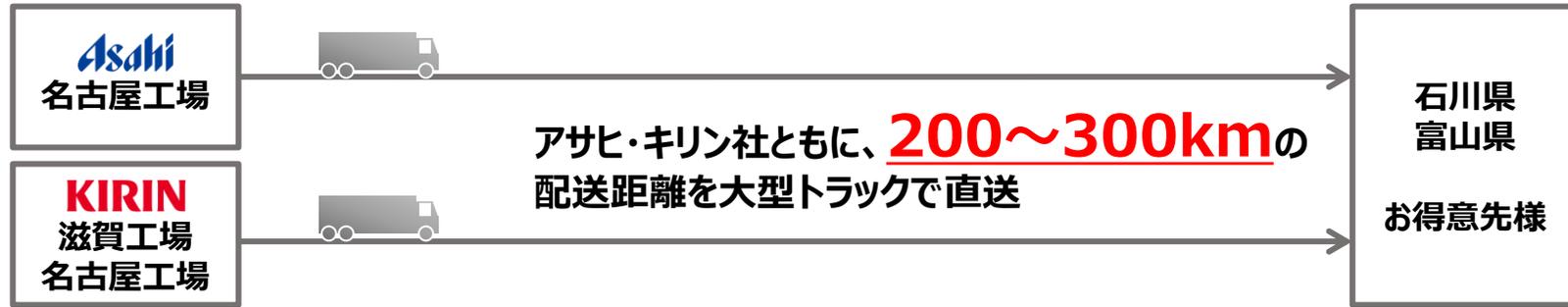
appendix

⑤他企業との連携(北陸地区・モーダルシフト & 共同配送)

ドライバー不足という社会的課題に対して、アサヒと麒麟社が協働し長距離トラック輸送を削減
北陸向けの生産体制を変更することで、鉄道コンテナの利用を促進

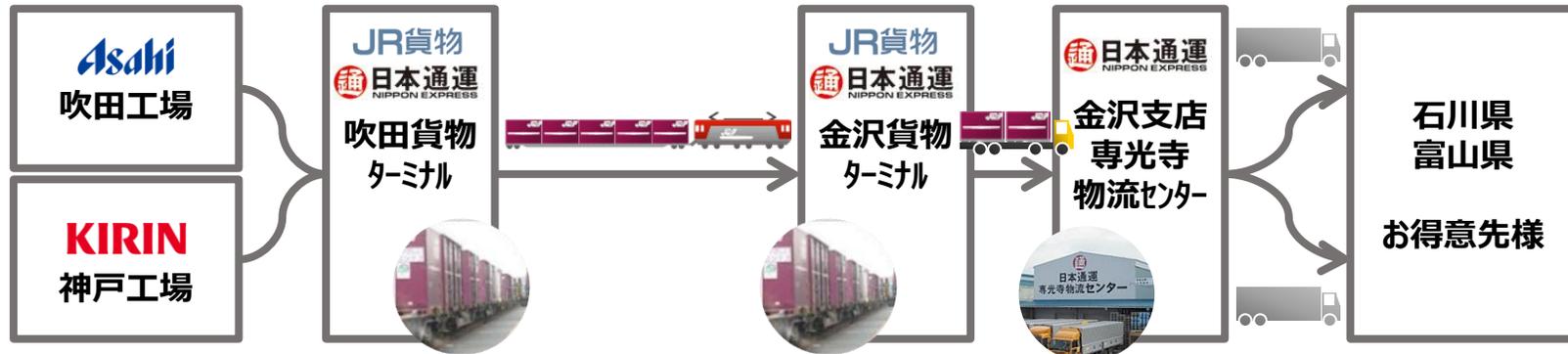
【規模・効果】年間1万台のトラック輸送を鉄道に振替え + CO2削減2700トン

<Before>



<After (2017年1月~) >

アサヒ・麒麟社の主な供給工場を関西エリアへ変更し、配送センター開設及び鉄道コンテナによる
在庫補充によって、**安定的な物流体制構築と環境負荷低減を両立**する。



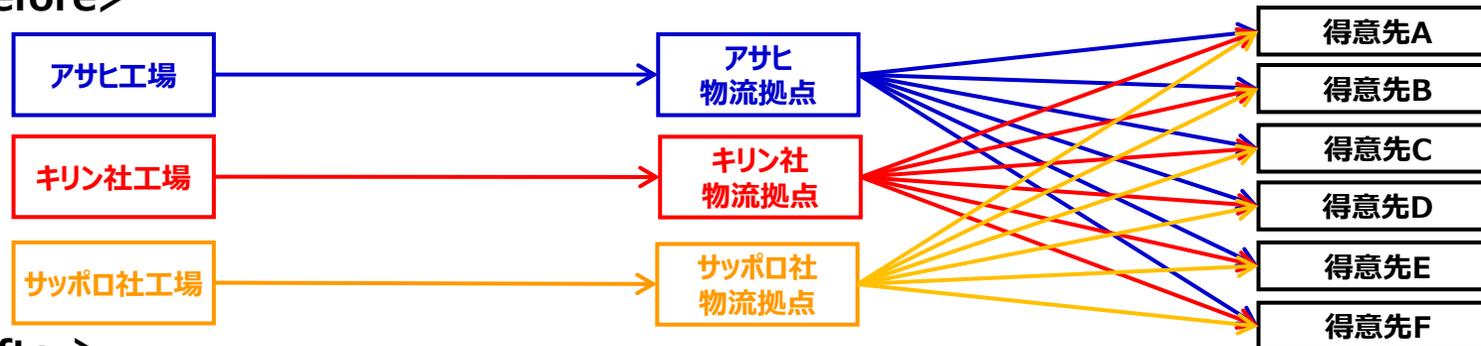
⑤他企業との連携(首都圏地区・共同配送)

アサヒ、麒麟社の2社で2011年から実施 その後2015年にサッポロ社がスキームに加入
 首都圏の各社が保有している配送センターを相互利用し、配送エリアを共同化

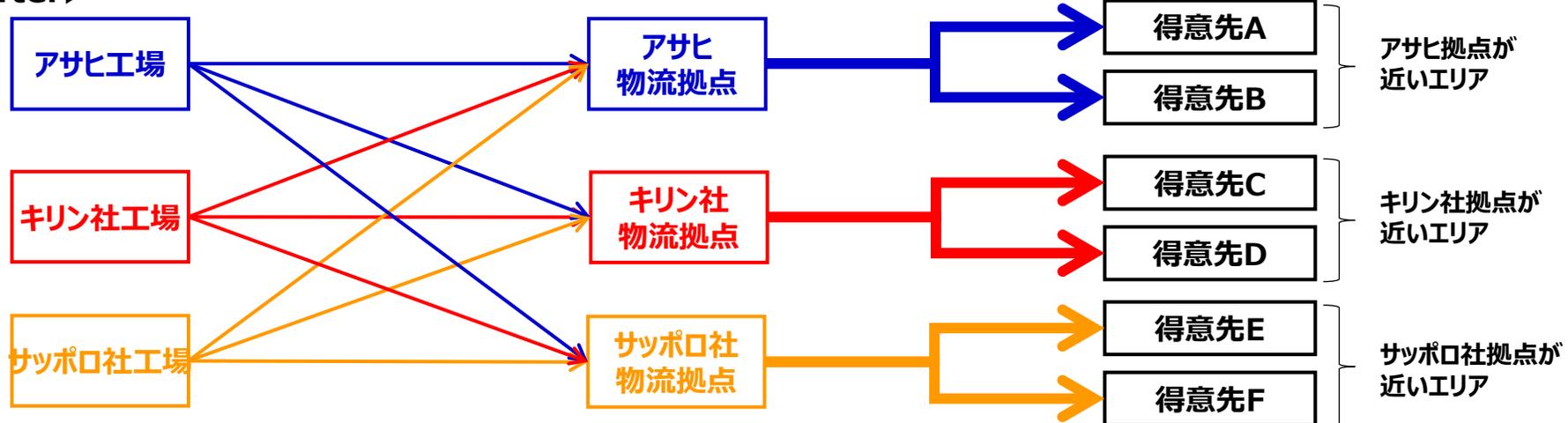
【規模・効果】 配送距離短縮、積載率向上(約25%増)、CO2削減(約137トン▲18%)

納品の対象得意先(卸、業務用酒販店様) 都内約1900店

<Before>



<After>



⑤他企業との連携(日清食品社との重軽混載輸送)

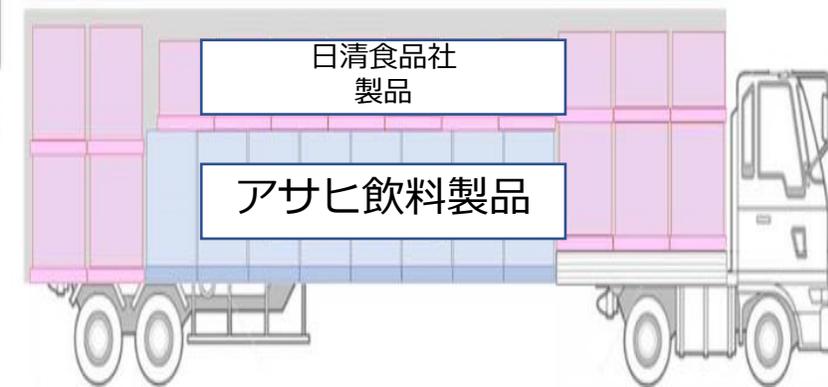
日清食品社と重軽混載で共同船舶輸送を実施

- ・重量貨物である飲料製品と軽量貨物である即席麺製品を混載し、積載率を最大化 車両台数20%削減
- ・関東～九州間を船舶輸送(週1～2便)にすることでCO2削減

輸送スキーム



積載方法



End Of File